

賀川豊彦・世界雲水遍路訪問先・巡礼年譜一覧（賀川豊彦全集23より）

年譜	訪問地・講演先	国	出会った人	備考
1924年)大正12,11,26 「春洋丸」横浜港出帆 11日目にホノルル沖	ホノルル・6日間滞在) 12/4(木)~10(水) 22回講演・青年会・ハワイ大学・監獄・アーラ公園(8回)・リアイホーム(肺病院) 領事館(婦人中心の会)	米国	「実業の布哇」の当山氏宅泊 小室牧師(ハワイイエスの友の会) 日曜は1日8回の講演 マンラピット弁護士の紹介で アララ公園に5000人のフィリピン人労働者の前で講演 *精神的指導者・比嘉牧師(沖縄人) 当山氏(砂糖事業成金) ヌアヌバリに案内(ハワイ島の処女林)	船中での読書 パレスチナ案内記・オックスフォード案内記・Lanthop Stoddard:”Rising tide of color” 「有色人種の擡頭」 * 日本人移民122,000人(沖縄から2000人)フィリピン人移民35,000人
12/10(水)ホノルル発 マトソニア号砂糖船 (6日間航路)→サンフランシスコへ (金門湾沖12/16着) 左記訪問先にて強行軍の講演、12/25にはリヴィングストンにてクリスマス講演後休養を已む無くする。 12/28・アシルモア太平洋学生大会出席(1週間続く)(27頁参照 1925年1月元旦 海岸にて「非戦争論」・「平和論」を述べる。 1/3正式に講堂にて非戦争論を講演。ポモナ大学の学生4人軍服を	金門湾東岸→バークレー→モントレイ(太平洋学生大会)→サンノゼ→アラメダ→オークランド→サクラメント→フローリン→メリスヴィル→ルーミス→ウォルナッツ・グローブ→スタックトン→リヴィングストン→コートランド→アシルモアの大会→モントレイ(メソヂスト教会)→ワットソンビル(1)→サリナス(1)→キングスバーグ(メソヂスト教会が隆盛)ハリス監督の努力が良い結果を結ぶ。 *加州の学生大会で既に排日法反対の決議があった。ハワイの海軍演習に反対の決議を取り上げて、午後の討論会は沸騰した。非戦論者と戦争論者の決戦は80対80の採決。スタンフォード大学の学生には非戦論者が多いのは、総長ジョルダン博士の	米 国 北 加 州	秦牧師(日本人教会)日本人兄弟達が、波止場まで迎えに来てくれた。高田牧師に会いお世話に成る 石垣健三郎氏の手料理で日本人有志との会食(フローリンの教会)古稀田牧師(サクラメント) 今井牧師(ウォールナッツ・グローブ) 門池義民氏(元神戸教会副牧師・10年前から旧知日本人会幹事)上田豊氏と旧交を温める(12/24・スタックトンにて) 藤井牧師・奥江氏の令息がリヴィングストン駅に迎える。 講演後脈拍の変調をきたす・宮原医師、石川医師、内田医師が、スタックトンの内池牧師の手配で見舞いに来る。藤井信忠氏夫妻に世話になり2日間休養を取る。夫人の看護に感謝。開拓者奥江清之助氏令息潔氏の運転で Mrs.佐藤付き添ってアシルモアに向かう。学生大会に日本人学生20数名優秀な学生(阿部磯雄氏女婿ドクトル赤木も基督教学生同盟の主事として参列) ロス駅に出迎え、河合牧師、旧友の有富虎之助氏、神戸貧民窟伝道友人の徳憲義君、合同教会牧師の小川清澄氏、メソヂスト教会の斉藤牧師 * 銀色の砂丘の上で学生に人類愛の進化を5期分けて語る 「真の愛は、宇宙の不完全を補修する意識的犠牲愛であらねば	青年運動家シャーウッド・エディーの母堂と乗合わず ハワイ大学とロスアンジェルス・オクシデンタル大学のフットボールの対戦があり、乗り合わせて居たので大変賑やか、ジャズ演奏とダンスに閉口する(賀川は静かに瞑想型) * 強行軍の車での移動と数々の講演で疲れた賀川は、12/25体調を崩す。 五明兄の友人宮原医師に眼を洗ってもらう(リヴィングストンに向い、クリスマス講演・10人のイエスの弟子を得る)・アシルモアで一般聴衆前にて3回講演する。 ①日本に於ける社会問題 ②平和論に就いて ③私の宗教経験就いて他の弁士・2~3回来日されたシャーウッド・エディー博士、ニューヨークのエリオット博士 * ロスアンジェルスでは、日本人合同教会に落ち着く

<p>脱ぎ R.O.T.C から脱退。1926 年 1 月 1 日を期に軍事教育全廃 1925 年 1 月 3 日早朝三浦さんの厚意によってロスアンジェルス行き急行列車に乗る(江渡狄嶺氏も見送りに)午後 10 時過ぎロスアンジェルス駅</p>	<p>感化であろう。 米国では、欧州戦争後各大学で猛烈な R.O.T.C と称す軍事予備教育が行われていた。軍事教育に反対する者は、非愛国者、売国奴と批判された。スタンフォードの学生はこの問題を大会の協議会に載せるのは危険思想とされるので恐れた。賀川を海岸に誘い出して平和論を砂丘に円陣を組んで聴く事に成った。</p>	<p>ならぬ。これが、大工イエスの教えた人類愛である。大工イエスの人類に対する貢献は、愛による死の蹂躪、即ち十字架である。十字架の愛は、好きな者を愛するだけでなく嫌いな民族でも愛する事で無ければ人類愛は徹底しない。」「此処に、太平洋が日本と米国の間に横たわる」「太平洋をその名の如く泰平であらしめよ！その紺碧の海を赤き血によって染めざれ！日本とアメリカを繋ぐ海の色を永遠に青く保て！これを保存するのは、全く人類愛の最後の階梯に立つ者の力による意識的犠牲愛の外、此れを青く保存しえぬ。」「天の父よ、太平洋を泰平洋であらしめ給え」と神に祈った。</p>	<p>日本人 30,000 人が移住している(ロス周辺)</p>
<p>1 月 4 日～8 日 日本人市民の為の講演(人種問題の講演) 左記のスケジュールにて 19 日までぶつとうしのプログラム</p>	<p>ロスアンジェルス周辺 1/9 米人市民ロータリークラブ「移民問題に就いて」1/10 正午・シティー・クラブ「日本に於ける社会運動」、同夜・リヴァーサイドにて講演 1/11 朝・サンバナディノ、同夜・米人への説教・インマヌエル教会 1/12 朝・オクシデンタル大学の学生へ講演、同夜・ハリウッド米人教会講演、1/13 正午～午後 2 時・米人自由派教会講演・午後 3 時～4 時市外サイプレス・パーク米人長老派地方大会講演、同夜 7 時～8 時 パサディナ市第一長老教会にて米人各教会聯同礼拝説教 同夜 8 時～日本人の為の説教 1/14 午前 Southern California</p>	<p>米 国 本 土 南 加 州</p> <p>ロスアンジェルスの日程が済んでから、ロス附近の講演に出掛けるパサデナ・ロングビーチ・リヴァーサイド・サンピードロモネタ・モンテロー・ハリウッド(アブラハムの開拓的精神を説いて回る)</p> <p>* インペリアル・ヴァレーの農民諸君は 8 時間の遠路自動車で駆けつけてくれた。(時間が取れず出向けなかった)</p> <p>* 日系移民の農業は上手く白人が「加州を白く保て！」と宣伝、「加州を青く保て！」と逆宣伝ロスの庭は日本人の手にかかっている所は青い。</p> <p>* ロスアンジェルス 16 日間は一生忘れる事が出来ない多くの友人を作った。米国を思い出す時第一にロスアンジェルスのイエスの友を思い出す。永遠に曇らざるロスの青空に、神の永遠の祝福を祈りたい。</p>	<p>* ロスの日本人市民間の宗教運動、伝道に努力した * 米国人の間での排日問題に就いて講演。 * ロータリークラブでも米国市民の非人道的なことを訴えた。(排日法に関して) * シティークラブでも排日の非成る事を 40 分 Southern California 大学万国公法の教授が、演説が終るや否や彼の教室で講演してくれる様申し込まれた。 * 南加州大学の万国公法の教室にて(国際法?)思い切って米国上院議院の取った排日法の非を鳴らした。 米国の移民問題が資本主義の成熟と共に一層困難な問題になったことを知り日本からの移民が資本主義の犠牲になって布哇から米国に雪崩込み、今また資本主義の犠牲として国外に放逐される惨状を述べ資本主義の</p>

	<p>College 政治科学生への講演、 正午・ブルユモンデークラブ 同午後 1 時半 SouthernCalifornia 大学、同夜ポモナ組合教会にて米人 の為の説教 1/15 ポモナ大学学生 の為の講演、15 正午・ポモナ市市民 への講演 1/15 午後 Clifornia 州立大学 分校にて講演、同夜 日系米国人市民（米国生まれ）へ、 英語にて講演 1/16 婦人会講演 1/17 モネタ日本人教会 1/18 米人の為 SouthernCalifornia 大学教会にて説教同夜パサデナ第一 長老教会の為説教 1/19 告別講演会</p>	<p>救いの為に、世の為に わが身忘れて、幾月日 死線を越えて、たちつる君を 迎ふる今日ぞ、うれしけれ</p> <p>神にささげし、身と霊の 張りつる弓の、いきほひに 石に立つ矢は、物の数かは 陽を射る気ぞ、阿鷓生り</p> <p>降るアメリカに、ぬれながら、 つみにかれゆく、人草も 清き賀川の、 恵みの水に 今ぞ命に、 よみがえる</p>	<p>最後の階梯が経済的帝国主義なる事を説明 し、米国は最近更に軍国教育を大学制度に持 ち込み国民一般が軍国主義化しつつある危 険を説き米国憲法の精神が失われつつある 事を語り、人種問題が決して戦争によって解 決されない世界の歴史を説明し、人種問題解 決の最後の鍵は本能を修正しえる自覚せし 愛のみと話す。（他教室からも講演の依頼有</p> <p>* 大学付属教会にて、宗教的立場から排日法 の不可を叫ぶ。</p>
<p>1 月 2 0 日朝、汽車に 乗るダイニューヴァ 線途中ベーカーズフ ィールドで乗り換えな ければならないのに、 ぐっすり寝込み、乗り 越す。フレズノまで行 く。列車から電報打つ 1/21 夜、寝台車にて サンフランシスコに 向かう（東方への旅路 を急ぐ）</p>	<p>* フレスノ 駅 * ダイニューヴァは、大平原の真ん 中、美しい植民地、シェアラネヴァ ダの連峰が屏風のように突き立ち荘 厳な景色。（日本人他ドイツ人入植者 も多い地域）ダイニューヴァにて宗 教講演を済ませて、同夜 * キングスバーグの教会にて講演 1/21 フレスノのシティークラブで 米国人の為の講演をする。フレズノ 市長も来賓、盛大な晩餐会「排日旋 風」はサクラメントに移っていた。</p>	<p>米 国 本 土 中 部 加 州</p> <p>* フレスノの組合教会牧師福島熊蔵氏が駅まで迎えに来る。 暫く待ち * ダイニューヴァの大石君が迎えに来てくれた。入植者の大 石君は趣味人で、バラック内も美しく温かい。 フレスノは、日本人の古い入植地で、スタックトンより落ち着 いている。</p>	<p>* ヨセミテ国立公園に程近い 1 時間車を走 らせると、ジャイアントセコイヤの森</p> <p>* ドイツ人入植者は、永久の志にてドイツ式 バンガローに住む。日本人は儲かると直ぐ帰 国することを考えていて、バラック住まう。 周辺はブドウ畑</p>

1/22 サンフランシスコ市宗教家大会出席 1/22 午後2時発 ワシントンDCに向 かって汽車に乗る	サンフランシスコ市宗教家大会にて スピーチ（15分のスピーチタイム をもらう）	米 国 本 土 北 加 州	*スピーチ「米国の宗教家が眠るべきではない。建国の精神に 逆らって人類愛を忘れている。物質による繁栄は暫くであっ て、真に永久性のある文化は十字架の精神を国民生活の基調に したものでなければならない。国が大きいと誇り、人種が美し いと誇るのは許されない。	
途中ユタ州オクデン に立ち寄る 1/24 オクデンにて 歓迎会を受ける 1/25(日曜) ワシントンDC直行 の汽車に乗り込む	オクデン・ソルトレイクシティにて 4回の講演を行う、1回は米国人 向け講演	米 国 本 土 ユ タ 州	旧知の仮家君、村上君、鈴木君、片山君など土地の有志が家に 向かえて旧交を温める ウワサッシュの山々・大塩湖、ベア・リヴァの畔も懐かしい モルモン教徒が砂漠地帯を開拓したように、賀川は自然の中で 自身の孤独を開拓した。	*オクデンで最も嬉しかった事は、（10年前 日本人会の書記として働く）10年前に賀川 が組織立った農業組合が完成の域に達して いた事基本金1万数千\$、積立て信用生産購 買組合の様な実行を行っていた。（砂糖会社 に収める甜菜の値段を 1t/12\$に引き上げを 迫った）
1/26 ネブラスカの 大平原にて、汽車のクラ ンクが壊れ立ち往生。	シカゴ・ステーションにて約2時間 島津岬氏の出迎えを受ける。	米 国 北 部	島津岬氏と支那料理を食しながら昔話・米国の現状を話し合う	大平原の日没を堪能する
1/27 ワシントンDC 着 1/28~1週間の伝道 大会、カナダの外国伝 道会社代表も含めて 約 5,000 人の代表者 が出席した。	ワシントンで開催される北アメリカ 外国伝道大会出席の為、賀川豊彦は 3回の講演をする「排日問題が否な る事を宗教的立場から話した。 大変忙しいスケジュールであった。 * 1年 7,000 万円の資金を費やして 30,000 人の宣教師を外国に派遣し ている米国伝道会社は、偉大な事業 であると賞賛したい。	米 国 東 部	* 神戸貧民窟の仕事を助けてくれた伊藤平次氏が待ってい てくれたその夜はホテルに宿泊、 翌日、宿舎の都合で海軍病院に勤める外科医の御宅に世話にな る。軍医夫人は、ウイルソン大統領と親しい様で、大統領が意 地っ張り、平和会議以降実に淋しい生活をしていたと話す。 * 吉田代理公使の接待を受ける 米国基督教連盟の有力者を招いて晩餐会を開催する。 恩師マヤス博士夫人の妹さんの案内でリンカーン・メモリア ル、ワシントン記念堂を見学する。ポトマック河畔の美しさと 共に、リンカーンの精神が永遠に残る事を願う。	ペンシルバニア鉄道会社の特別急行列車に てワシントンへミシガン湖を経て西ヴァー ジニアへ。ポトマック川に沿って汽車は東に 進む。 奴隷解放の運動者・ジョン・ヴラウンの墓が あるファパース・フェリーを通過しワシント ン市に入るブルーリッジ山脈が丘陵になっ て現れ日本の景色に見える
2/3 ニューヨークに	ロックフェラー氏に、	米 国	女子大を出て社会衛生研究に来られた鹿島さん、	* 不幸にして、目の具合が悪くカナダの講

<p>発つ・講演を5回する ニューヨーク在住の 婦人方に大変世話に なり治療の為1ヶ月 滞在する</p> <p>2/24,フィラデルフィ ア市で開催される数 百万の信徒を全国に 有する長老派全国大 会にロバート・スピ ア博士(全米基督教同盟 議長)と二人で話をし た。</p> <p>3/14に眼帯を外して、 大西洋を東に渡るア キタニア号に乗りイ ギリスに向かった。</p>	<p>招かれて、ロックフェラー嬢の通う ミス・スペンサース・スクールにて 講演をした。(ニューヨークの富豪の 娘達が通う女学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> * ニューヨーク市内の各大学の宗 教団体が連盟を作り、ユダヤ教 徒も入っている。(講演する) * ユダヤ人宗教大学から講演の依 頼が来た。 * 2週間安静病床から出て各地の 講演で預言者ヨナの思想を繰り 返した。 <p>*長老派全国大会にて、ロバート・ スピア博士と話し、賀川は上院の態 度を非人道的だと罵倒した。演説が 終わった時会衆は、起立して賀川に 敬意を表した。賀川の警告する反響 に依って米人の総てが、排日法に反 対の態度を示してくれた事は嬉し い。特に加州の学生大会で排日法反 対の決議をした事は、勝利に向かう。 北米のクリスチャンは総て上院議員 の行為を拒否することを表明した。</p>	<p>東部 N Y 州</p>	<p>大坂教区監督名出さんのお嬢さん(津田英学塾卒、社会衛生の 研究)二人とも米国の看護婦免状を持つ。</p> <p>有賀長雄博士の長女でコロンビア大学に社会学の勉強に来ら れている有賀女史。ニューヨーク修道会の婦人部を引き受けて いる永井女史、皆さん</p> <p>清水牧師夫人が毎日眼のシップの為に次々と来てくれた。 絶望的であった眼も、奇跡的に2週間後に右眼が回復してきた ことは、ご婦人方の手厚い看護の賜物と感謝の気持である。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 排日に対して反論する、日本に来ている宣教師も一生懸命で ある。特にギューリック博士を中心にする一団は実に勇敢に日 本の為に戦って呉れる事に感謝に値する。 * 「可哀想だ! 米国に善人もあるものを・・・金権と我利の 亡者連が、これらの徳有る人々を隅に押し込み、我が物顔に振 舞っているのだ!」 <p>移民の両親を持つ子供達は、日本より良き境遇に置かれている 事を喜ぶのは尤もなことだが、魂に於いて日系米国市民が道徳 的頹廢に染まって欲しく無いのである。</p>	<p>演旅行は断念せざるお得なかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 満1ヶ月間ニューヨークにて、眼の治療 をする事になった。 * ニューヨーク・ミッション病院に世話に なった * インターナショナル・ハウスに宿泊し、 治療に当たった。(3番街57丁目) <p>* 米国を回って居る間に、日本の事が全く米 人に理解されていない事に驚いてしまった。 日本の事を報じる親切な一新聞があるわけ でもなく、日本人が経営する一英字新聞が無 いのである。マクラウイチの様な悪辣な新聞 経営者が、只一人で仕組んだ排日法を打破る だけの宣伝・パンフレット・リーフレットの 無い事を遺憾に思った。</p> <p>日本といえば、戦争の好きな国民、黄色い顔 の国民、腹切る国民にしか思うて居ないので ある。更に驚いたのは、米国生まれの日本人 が日本を軽蔑する傾向があること「日本? No Good!」と来るからやり切れない。</p> <p>私は、日系米国市民に日本の良き所を英語で 演説した事があった。</p>
<p>3/14にニューヨーク を発ち、3/20の朝、 船はイギリスのサザ ンプトン港に着く。</p>	<p>眼の具合が悪いので、眼科医にかか ったが、トラコーマの患者は英国で は診たことが無いと、英国の眼科医 に見放されては帰国も考えたが、シ</p>	<p>大英 帝国</p>	<ul style="list-style-type: none"> * サザンプトン教区の監督セシル卿が出迎え、是非宿泊して 行く様に勧めてくれたが、ロンドンで待っている人が有ると辞 退した。 * ロンドンでは、米国での外国伝道大会に英国代表して出席 	<p>マクレナン氏は、欧州戦争の間は軍需局長で その後大英帝国の外国伝道会議の総幹事を 務め、奉仕的に働く法律家である。その為、 知己が広く、賀川を各方面で紹介してくれる</p>

<p>サザンプトン港からロンドンまで「特急」で1時間半ウォーターロー停車場に着いたのは夜中12時でした</p>	<p>ップをすれば多少良くなる経験から、日本旅館に引っ越して1週間横臥して日本人ボーイにシップの世話になろうと決心した。3/23(月)リーゼント・パークに近いノッチンガム・プレイスの東洋館に引っ越す。</p>	<p>されたマクレナン氏、日本人基督教会の土肥氏他数名の方が出迎えてくれた。マクレナン氏宅に宿泊させて頂く(サウスケンシングトン)馬車で郊外の家まで、下男と優しい夫人が待って下さり正にディケンズの世界である。</p> <p>* マクレナン氏曰く、英国の群衆を知る為には演説するのが最も良いと各方面の講演会に出席させる様に時間割を作った。オックスフォード、イートン、メルボルンハロー、ラグビー等まで賀川を紹介。少々面食らう。</p>	<p>には、都合の善い人であった。</p> <p>マクレナン氏の定めるプログラムの外は、労働組合と貧民窟の研究に満1ヶ月を費やすと決めた。後の時間は、博物館とロンドン大学の公開講座に出席する事にした。</p>
<p>ウエストミンスター寺院(案内役・マクレナン氏)</p> <p>ウエストミンスターが余りに尊い私の心の記念碑である事を知って驚いた。テムス川の一角に立ち、アングロサクソン民族の為に立っているのでもなく、実に東方の一巡礼者の為にも建っているのだと賀川は涙した。</p>	<p>ウエストミンスター寺院は、十字形になっていて南北が東西より長く、礼拝する時は南に向いて座る。</p> <p>*英国の歴史は誠に輝く歴史であった。ウエストミンスター寺院の歴史は、余りに古い。歴代の偉人たちが此処に眠る。</p>	<p>南は、歴代の王達の棺が置かれてあり、北側は科学者・宗教家を葬り、東側は政治家・西の袖は詩人が埋まっている</p> <p>*デヴィット・リヴィングストンの墓の前にて瞑目して祈る。「我らの愛は、世のいと微さき者の為にも注がれねばならぬ」という彼の言葉を思い起こす。黒人の世界の解放の為に祈った。「天の父よ、我らの間にリヴィグストンの精神を生かさせて置いて下さい。アフリカは、今日も暗黒の中に座っています。どうかアフリカの為に百のリヴィングストンを末永く起こさせて下さい」</p>	<p>シェクスピア、テニソン、バイロン、シェレーは左翼に、進化論の創始者チャールス・ダーウィーン、サア・アルフレッド・ラッセル・ワレースは南の袖に、東側の廊下に大宗教家ジョン・ウェスレーの胸像が睨む。ワーズワースによって自然を愛する事を学び、テニソンによって性に対する至純の愛を学んだ。バイロンから海と自由と熱情を学び、シャレーによって雲雀と物語ることを教えられ、リヴィングストンは、賀川の敬虔な父である。ダーウィンは科学の母、ワレースは進化を通じての神を教え、ウェスレーは産業革命を通じての信仰と祈りを学ばせてくれた。其処に立つ塑像はみな私の恩人である。</p>
<p>ホワイト・チャペルの貧民窟を訪ねる。(トインビー・ホールの副館長キャッチプール氏に案内して貰う)</p>	<p>旧ロンドン市の城壁を境として銀行街と貧民街が相接している。</p> <p>ビショップ・ゲート街・コンマァンヤル街の大どうりを左に曲がるとトインビー・ホールが見える</p>	<p>* キャッチプール氏の家は、貧民窟のテニスコートの際に立つ4階建てアパート部屋に入ると立派な家庭であるが外を見ると貧民窟。右手の側の2階屋は、崩れかかっている。窓にガラスも無く、屋根の瓦は落ち、天井から青空が覗き、歪んだ鉄製のベッドには昆布の様にドロドロになった毛布が2~3枚、</p>	<p>*ユダヤ人貧民窟の野天店は二間幅の道路に人が一杯。極彩色のうち緒が下がり、果実店、魚屋、肉屋、ぼろを着た少年、マッチを売る乞食、金色のスリッパに金糸の刺繍をしたマントを着た女優の様な女、精神病患者は</p>

	*貧民窟研究者であり、且つ奉仕者であるアーノルド・トインビーを記念する為に建てた（煉瓦造り、敷地は千坪以上、本館は3階建て・図書館・クラブ室・夜学学校舎・数個の赤煉瓦の建物、本館の裏は運動場、テニスコート2面）		ぐるぐる巻きになって積み上げてある。こうした中にもレースのカーテンが窓に下がり、ビューロー・ケースにカップボードが見える。日本式の畳が、西洋式の机とベッドに代って居るだけである。	変てこなイタリア風帽子に人形をぶら下げ、驚くほど小さな日傘をさして女王の如く歩く、子供達のはやし立てる。 *貧民窟は、時代の敗残者の隠れ場所であるというが、流行まで70~80年遅れている。感慨無量の感じ。
ロンドン塔に出掛ける。(質素な櫓である) 40 銭ほどで入場券を買う。シェクスピア時代の服装をした門衛が錠を入れてくれる。				ジョージ五世の王冠、エドワード7世の王冠が、鉄柵の中に陳列され、向側の建物は「血の櫓」と言われ王宮付属の監獄。幽閉された人達の落書きが残る。櫓の他の部分には英国古代の武器が陳列され、庭では小太鼓に合わせて衛兵が訓練をしている。
オックスフォード大学で開かれた学生聯盟に招かれた。	オックスフォード大学学生聯盟幹事120~130人が集まる中で講演。 日本人学生諸君が賀川の歓迎会を或レストランの2階で開催。 皆、確りした方達で話が面白く愉快であった。学費の高いのに驚くばかり毎月350円位、余裕ある為には500円は必要とのこと。		講演後、クライスト・チャーチ大学のルーク博士宅に宿泊 ルーク博士は、キリスト伝道研究の権威ウィリアム・サンディー博士の後継者。もとオックスフォードにあるキープル大学総長サンディー博士の後継者。ルーク教授は留守で夫人と娘さん、オックスフォードの大僧正の3人が出迎えてくれた。 * クライスト・チャーチの図書館に向くと日本の古文書専門の図書館に這入った様で学問の威圧を感じた。 * オックスフォードに長く居られる好本氏の案内でマグダレン大学、バリオル大学、その他の大学を見て回った。 * 宿泊した室は、エリザベス女王が泊まったことがある歴史的な室であった。	クライスト・チャーチ大学は、大学が教会の内部にある。毎日曜8:00/11:00/17:00 3度の礼拝が行われ、クロムエール革命の時も革命軍に反抗したほど保守的である * サンディー博士が講義したテーブルを中心に中世期風の教室は環境そのものが大きなインスピレーションである。 * 食堂は、普通の大学の講堂位あり、英国歴史に名をはせた人達の肖像画が壁にある。ウェスレーやラスキンの画像もある。 * 欧州戦争で戦死したクライスト・チャーチの卒業生数百名の名が銅版に印刻されて掲げてあった。
オックスフォードの			* 同大学幹事スミス氏から一度是非ラスキン労働大学を訪	* ラスキン・カレッジは学生が37~38名

<p>ラスキン労働大学を訪ねる。</p>		<p>問してくれと手紙をもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 近代に於ける最も偉大な芸術批評家であったジョン・ラスキンが、労働問題の解決を終生の目的としたと記憶される事はこの上なく嬉しかった * ラスキンの芸術観には、徹底的に教えられた。山、湖、海、建築に興味を持ちえるようになったのは全くラスキンのお陰。ラスキンは賀川の恩人であるという。16歳の時ラスキン伝を読む。17歳の時「胡麻と百合」を徳島毎日新聞に紹介。 * 彼の経済学説は、賀川の経済学説に似ている。然し賀川の経済学説は、より組織的に説明せねばならぬ時代に立っている。その為、彼の経済学説に教えられた事は僅少である。彼の厚生の経済学説の原理に於いては、彼が先生である。 	<p>と少なく校内に寄宿して、殆ど個人教授的な指導であって、日本の寺子屋を進化させた様な感じがして嬉しかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 「近代画家」「ヴェニス石」「ゴシック建築」「フロレンスの七朝」等殆どラスキンの書物で感化を受けぬ書物は一つも無いくらい。 * 「橄欖の冠」はキライである。海軍兵学校でラスキンが講演したものであるが、戦争によって国が興るという事を高調しているので賀川の大嫌いな書物。
<p>4月2日 午後6時半 英国議会・議院にて 労働党の議員が意見を求める。</p> <ul style="list-style-type: none"> * 英国労働党議員連は、足踏みと拍手で賀川を迎えた。 * 最近の日本に於ける労働運動の趨勢を述べ、造船・紡績・機械・農業などに関して話した。 	<p>マクレナン氏の案内で House of Parliamentに出掛ける</p> <ul style="list-style-type: none"> * 英国労働党幹部・議員への講演。シンガポールの海軍要港問題に就いて反対論を述べた。 <p>①日英同盟の意義を今更疑い始めるとは、英国の保守党も現金すぎる。</p> <p>②国際連盟第一ヶ条の約束無戦世界の実現の趣旨に反するではないか？</p> <p>③日本が軍備縮小している今日、英国が軍備拡充とは如何なる理由か？</p> <p>④すべてを譲って、英国がシンガポールを堅める必要があるとして、東洋の仮想敵国はシンガポール以東には日本しか無いのではないか？日本</p>	<ul style="list-style-type: none"> * 英国労働党の中に3組位の母体がある（労働組合団体・知識階級団体・左傾団体）であるが、賀川に3回3組に話をしたいと言う事であったが、時間が無かったので1回だけ応じる事にした。 * 議院といっても日本の様に粗末な建物ではなく、王宮のような立派なもので、Mr. Amons が面会口まで出てくる間広い廊下で待つ間良い勉強をした。 * 労働党の農務大臣 Mr.Amons の案内で議員連の休憩室である大広間(ロビーに通される。大戦中大英帝国首相ロイド・ジョージ、労働党総務アーサー・ヘンダーソンと握手を交わす。 * 2階の大部屋に「口」型に机を並べ40人位労働党議員が座る。プラムレー氏は病気の為見えなかったが、労働大臣トム・ショウ氏を始め大臣・次官級労働組合出身のお歴々が並ぶ。 * シンガポール海軍要港問題を賀川がどう思うか？第一、第二の間は日本の労働運動の事情について話してくれと云う。 	<ul style="list-style-type: none"> * 議院の廊下は広く、英国史の壁画の間間には英国民主思想に貢献した人々の等身大の銅像が台座に立ち、この間を通過して議席に着く議員に語りかける。 待ち時間にマクレナン氏から生きた英国史の研究が出来た。 * Mr.Amons に送られてロビーに降りると、ランズベリー氏は其処まで一緒に歩きたい云うて長い廊下と一緒に長期議会の所まで歩いた。ランズベリー氏は白髪長駆の老人である。彼はロシアの共産党に同情を持った宗教的自由思想家である。最近。唯物的共産主義者とも別れて一人雑誌を出している。労働内閣の時通信大臣の席を与えられたが、通信大臣が内閣の閣議に裁決権が無いからと大

	<p>を恐れる理由は何処にあるのか？</p> <p>日本は 19 世紀の人類の失敗史を繰り返したくない。野心があるならワシントン会議に参加しなかった。日本の世論は侵略主義に反対している。従って英国保守党の意見に反対。</p> <p>⑤日本にも軍国主義者が居る。然し一般世論・労働階級の意見は、仏のエリオールと英国のマクドナルドの抱いている絶対世界平和の意見に賛成である。「平和議定書」の趣旨に我々は賛成である。唯少数の帝国主義者と英国保守党流だけの者であろう。</p> <p>と結んだ。労働党議員は足踏みと拍手で迎え入れてくれた。</p>	<p>*最後に労働党議員連は、感謝の意を表し、「何か我らで日本の労働運動に貢献する事があれば言うてくれ」という。</p> <p>ロビーでヘンダーソン氏と交わした会話を繰り返した。</p> <p>「2年に1度か、3年に1度日英の労働組合の代表者を相互に交換しようではありませんか。つまり国民外交を開始しようではありませんか！」と彼らは満場一致で賛成した</p>	<p>臣にならなかった人物である</p>
<p>議会労働クラブにて、労働首相マクドナルド氏とマクレナン氏と賀川の3人で昼食を取る。</p>		<p>*マクレナン氏と 12 時に会う為、ヴィクトリア停車場に近い万国外国伝道同盟本部エジンバラ・ハウスを出てウェストミンスターでマクレナン氏と会いファビアン協会の前を通うって労働党員が集まるクラブに着く。梯子段正面に広告ビラがある。(毎週土曜日に基督教の立場から見た社会問題の講演が有るという。講演者はカノン・ドウナルドソン) さすが英国ウェストミンスターで牧師が社会問題の講演をする。感心する。</p>	
<p>リッル・クロイスター (ウェストミンスター寺院内)</p>	<p>カノン・ドウナルドソン僧正宅に招かれ、質素な食事と痛快な会話。</p> <p>30 年ほど前にカノン自ら先頭に立ち失業者の群れを百何十里遠方から</p>	<p>* 賀川の「国教会の教師達の中に、社会主義は盛んですか？」の問いに「盛んというわけではないが、キングスレーやマリウスの感化が残っている。カノン・ゴーアもライスターの監督もマンチェスターの監督も社会主義者です。私自身は独立労働党</p>	<p>*カノンは、ウェスト・ミンスター寺院で、皇帝の墓を背にしての講壇から、基督教の立場から社会主義の講演をしているのである。それを許可する大僧正も寛容だが、それを喜</p>

	徒歩でロンドンまで示威運動に引張って来た。		に入っていますが、時々ストランド・シアターで講演します。」 *ストランド・シアターというのは、ロンドン一流の劇場、毎日曜日の夜独立労働党が其処を借り切って、民衆講演会を開いている。何時も満員である。	んで聴く民衆も民衆である。其処が英国の偉大な処であろう。感心する。
ロンドン断片	<p>*ロンドンのビショップ・ゲートの地下鉄道の停車場に近いダヴェンシャー・ハウスで正午の講演会を開く</p> <p>* セント・パウロ寺院 (1666年ロンドンの大火の後、市中の商人が寄進して献立した寺院) 徳川時代の寄進建議と似ている。 英国の左甚五郎とも云われるクリストファ・レンによって建築された。 レンの造った円塔は、壁に口をあてて囁くと一町以上離れているにも関わらず大声で叫ぶ如く聞こえる。 其れは京の知恩院の左甚五郎が造った驚張り以上の奇跡である。 しかし、教会堂の地下室は宣教師を崇拝する所ではなく、ネルソンとウエリントン公を中心にした軍国的色彩の濃厚な所であった。</p>		<p>①クエーカー教徒に出会ったことは、最も嬉しい出来事の一つ ジョン・フレッチャー氏とピート氏は最も気持ちの良いクエーカー教徒であった。クエーカー教徒こそ最も原始的なクリスチャンに近いと賀川は考えた。</p> <p>② イギリスの軍楽隊は面白い。スコットランドの横笛と縦笛の一组が演奏合わせて楽隊が、一中隊街を行進する。野次馬が続いて足並みを揃えて就いて行く。少年団の行列も堂々たるものリボンの付いた金棒を廻して小太鼓鳴らして行進する。</p> <p>③「きもの」の著者、ジョン・パリに会った。彼がいうに「日本も、いつまでも子供じゃあるまいし、賞賛ばかり受けなくて、ちっと真面目な批評を受けるべき、何時も賞賛ばかりでは成長することが出来ないではないか！」彼は英国外務省アジア局日本部の主任である。</p> <p>④賀川は、サア・クロウなどを中心とする外交関係の人々に招かれて一晩話をしたが、皆大酒呑みで大食漢。ロンドンっ子は朝寝坊（北緯50度近くに位置し朝が明けるのが遅い）</p>	<p>①クエーカー教徒の人の善いことに驚く。 大戦中 250名近くの者が非戦論で入獄し、2万人近くの者が戦争をしないことを告白し他の仕事に回された。</p> <p>② ロンドンの諸官庁の美しいこと、石造りでしっかりしている。植民地を奪って建てた物であろうが、ジョン・ブルは頑強な国と想わされる。</p> <p>③婦人の服装が階級別に違っていることが目についた。子守が白いハンカチを後頭部にぶら下げていたり、使丁がシルクハットを蒙って急ぐ様子、服装によってその人の職業の類別がつくのは面白い。</p> <p>④ロンドンのセント・パウロ寺院が国家主義的なのに吃驚した。大英帝国そのものに対する暗示のように考えられて淋しかった。</p>
世界社会主義連盟のロンドン本部を訪ねる	<p>フリッツ・アドラー氏とトム・ショウ氏に出会う。</p> <p>* ショウは紡績工である。先の労働内閣の時には労働大臣をしていた</p>		<p>①フリッツ・アドラーは、ユダヤ系のマルキストである。彼は、オーストリアの崩壊する前に軍閥を代表する内閣総理大臣を暗殺したので長く監獄に居た猛烈な男である。</p> <p>②革命と共に彼は解放された。しかし新しい敵は共産主義に名</p>	<p>* 敷物も何もない、ウエスト・ミンスター寺院の裏にあたる4階の室の一隅に三人は顔を見合わせて座る。</p> <p>* ショウは力瘤を入れて第三インターナ</p>

	<p>*話は日本に於ける労働運動と思想的背景に就いて始まった。日本の共産主義の色彩が強いという二人は顔を曇らせた。「ロシアは西ヨーロッパでは、手が伸ばせないからアジアに手をつけたのだ。オーストリアにも最初来て国を滅茶苦茶に仕掛けたので我らは彼らを排撃した」と語る</p>	<p>をかりて圧制をなさんとする人々。パウエルと共に彼らと戦って勝ったのである。</p> <p>③1923年、ウィエナで万国社会主義大会を開いた際に、社会主義国の軍隊訓練を労働代表に検閲してもらった。</p> <p>④英国労働議会のギリス氏は、オーストリアは社会主義国としては最も成功した国の一つである。</p> <p>⑤暴力主義を必ずしも否定しないが、ロシア式共産体系と独裁主義に反対して立ったフリッツ・アドラーなどのお陰で出来たかと思うとアドラーに敬意を払いたい。</p>	<p>ショナルが世界的勢力に慣れない理由を説明する。それは殆ど、マクドナルドとボンドフィールド女史が、賀川に告げたと同じ意見であった。</p>
<p>一般婦人労働組合の本部（タヴェスター・スクエアに本部はある）</p> <p>英国は幸せである。</p> <p>ボンド女史の様な聡明で優しく美しい女性を持つ国民であるから・・・日本でボンド女史のような傑出した婦人労働運動者を見出すまでに何年かかるであろう！</p>	<p>ボンドフィールド女史と語る</p> <p>*「アイコンクラスト」という匿名でボンド女史の伝記を書いた或人がボンド女史は宗教的訓練のあることを記述。(母親からの宗教的訓練があった)</p> <p>*婦人労働組合の組織について訊ねる「英国全体に婦人労働組合の会員が約50万人います。紡績労働組合の女工を入れると余程多くなるのですが、婦人労働組合員にはならない。徐々に小組合を合併して英国全体の大きな組合にしていきたい。」</p>	<p>* ボンドフィールド女史は「Mrs,Kagawa 失望しないように、努力するように伝えてください。英国の婦人の中の労働問題もこれで三代目です。一代位やってそれで根気が崩れるようでは駄目です。飽くまでも主義の上に起こって戦うようってください」と激励の言葉を頂く</p> <p>* 英国の労働組合の会員数が減ったが、何処まで減るのでしよう？と尋ねると「労働運動は、他愛運動です。その事を意識しないと自分に利益のない会費を納めたがらない。しかし他愛運動である事を意識すると会員が増えてきます」</p> <p>* ボンドフィールド女史の講演旅行の日程を見ると、来る2ヶ月間は、殆ど1日として空いている日は無かった。</p> <p>*ロシアの共産主義に就いて訊ねた「ロシアの共産主義も良いけれど、ロシアに善いのであって必ずしも英国の様に民主主義の進んだ国には、ボルセヴィズムは適合しない。英国人には少数党に対する権利を保証してくれなければ、どんなに有難い政治でも感心しない。やはり英国人は議会政策を中心にしなければ政治の動きが取れない国であります」ロシアは言論の自由がない国、英国人のような言論の自由を尊ぶ国には合わない。</p>	<p>* ボンドフィールド女史の第一印象</p> <p>「美しい人格の持ち主、任侠肌の姉御を聖化したような女だ」背の高さ、顔の輪郭、年齢からいって婦人矯風会の林歌子女史にそっくり。アイルランドの婦人だと直ぐ分かる。</p> <p>*話は先日英国の議会でランズベリー氏に会ったことに移る「可哀相に老ランズベリーは余程悲観しています。彼は毎日曜のデーリー・ヘラルドに基督教の真理に就いて書いていたが、ボルセヴィズムにも同情があり共産主義にも提灯を持っていたが、英国では盛んでない事に悲観しているのです」</p> <p>*ボンドフィールド女史は、幾冊かの婦人労働組合運動に関する統計を賀川に渡してくれた。</p>

<p>4月12日～3日間 グロスターにて独立 労働党の全国大会が 開催される（賀川豊 彦は出席の為ロンド ンをしばし離れる）</p>	<p>リバプール→マンチェスター→グ ラスゴー→エジンバラ→ニューキ ャッスル→ロンドン</p>	<p>「煙突の墓場」ロンドンを離れグロスターの労働党大会に向かう。労働問題も面白く、婦人労働組合も興味をそそられた。ロンドンに住んでみて考えてみると主観経済の病的刺激の上に起こった資本主義文化のように思う。 社会病理の立場から臨床的対策を考えない訳ではない。今日の都市文明そのものが間違っているのではないか、病的刺激と欲望を基礎にした生産社会に百十三万人の失業者（1925年4月現在）が有る為に年7億円の失業保険金を支出したところで、一方では幾百万町歩の英国の耕地が遊んでいるのでは仕方がない。つまり今日の都市経済組織の上に涌いた今の形の労働運動は人間究極の解放にはならない。ただ一時逃れの解放運動であろう。臨床講義から少し離れて大局的に英国本来の精神から歴史と将来を見直してみたくなった。</p>	
<p>4月14日午後3時 スコットランドへ 晩9時にマンチェス ターに着く。</p>	<p>スコットランドに旅立つ（ゴシック建築讚仰） マンチェスター行きの汽車に乗る 為ヘヤフォードで1時間余り待ち 時間に英国のゴシック建築を見物 する。</p>	<p>グロスター聖堂の美しさは、ウエストミンスター・アーベ ーよりも、セント・パウロよりも、ヘヤフォードの聖堂よ りも美しい。 *英国統治の上で功績のあったエドワード二世が、此処に 眠っている。</p>	<p>*復活祭に沸くヘヤフォードを後にマン チェスターへ途中、車窓から田園風景を眺 めるホーソンの生垣が幾十里も続く。ウエ ールズ、シュルスベリー・クロウを過ぎて マンチェスターに着く。ホテル・エキセル シヨアに泊まる。</p>
<p>4月15日の朝 英国消費組合本部へ マンチェスターにて</p>	<p>英国の消費組合というのは、マン チェスターを中心にしてキャノン 街に卸購買部がある。</p>	<p>*キャノン街の卸部に出掛けて行き副主事のオブライエン 氏に会う。卸部の設備・規模の大きさは驚くばかり！！ 日本の消費組合の参考にもならぬ程。1923年組合員数 4,569,256人、売上高1,654,900,380円（1ポンド10円と して）純利益1億5,916万2460円従業員数12万8,734人 というのだから世界最大の商店であり大仕掛けの商売であ る。その後従業員数も増加17万人からいるという。</p>	<p>*賀川は、消費組合調査部に入って従業員 の作業状態、労働条件に就いて尋ねた。 労働組合と完全な調和が取れていて総て 団体契約によって事業が経営されている。 ロッヂデール式消費組合が始まってから 今日まで80年になるがストライキは2度 しか起こっていない。</p>

		<p>*キャノン・ストリートに東京の三越呉服店が4つ建っているスケールの卸部には、デパートにある総てが揃っている（時計・婦人貴金属類なども）その日は仕入れ日だとか700人程の人が集まっていた。大食堂も実に立派で一流ホテルの第一等料理である。無料でご馳走になっていた。オブライエン氏の好意で賀川もご馳走になる。</p> <p>*宣伝部は本部の4階にあり、営業部とは全然別の組織になっている。消費組合ユニオンと称している。「消費組合大学」をも経営している豪気さである。生徒は40人ほどで専門的な消費組合について研究する短期間教授をしている。そこで学ぶ学課は、必ずしも学理だけでなく営業部の主任に成る者には商品学、肉の鑑定法、肉の切り方、洋服地の鑑定法から尺の取り方まで教科書に書いてある。</p>	<p>* 賀川がロンドンにいた時にバアミンガム附近の消費組合に大きなストライキがあった。消費組合が1億5千万円儲けるなら我等に分配してくれという趣旨。労働組合議会のブラムレー氏の調停で納まる。</p> <p>* 消費組合は労働組合の要求する標準賃金を支払っているのだが、消費組合の成績が良いので値上げを迫ったということ。ロンドンの労働組合は「50の大資本家が無くなって500万の小資本家が出来てこまった」という。</p>
<p>英国の紡績女工</p>	<p>オブライエン氏の好意により、消費組合直営の紡績工場を見学する事が出来た。</p> <p>*ロッチデール市は、マンチェスターから8里程離れた所。堺市の大阪市に於ける如く産業都市である。大雄弁家オーコンネルの銅像の建つ市庁舎を過ぎ陰気な雰囲気のと坂の途中に3階建ての建物が建つ。此れこそロッチデール協同組合の最初の建築物である。</p>	<p>* オブライエン氏の用意してくれた車で、マンチェスターを1歩出るとあちらこちら丘陵の上に赤煉瓦の工場ばかりである。紡績と紡織工場の二つで稼動している。女工さんは40代の恰好の婦人が最も多い。</p> <p>* ロンドンの靴墨工場をデーム・アデレード氏の案内で見学した時、女工の美しいこと、教育事業の完全な事に驚いた。英国流の保守主義で旧式の機械を今猶、運転していることに感心した。</p> <p>*歴史的に約200に近い消費組合が英国のあちら此方に出来た。消費額によって利益を割り戻すと言うのではなく出資者高に従って配当するという、今日の株式会社と変わらぬ方式による還元。その為、多くは成功しなかったが、今日ロッチデールの最初の共同者20人のお陰に依って、ロッチデール式消費組合の出来た事は誠に感謝せねばなら</p>	<p>* 旧式な港リバプール マンチェスターを午後に出て、リバプールの港を見に行つた。着いた時には暮れていたので駅前宿に泊まり、喜劇芝居を見に行つたが、アメリカ物をしていたので1幕も見ずに宿に戻る。翌日グラスゴーに発つ前に港を覗いて廻つたが、濁つた大きな川を利用した港で、風は強く突堤は旧式で沖も不便な港であると思つた。リバプールも余程確りしないとハンブルグに負ける恐れがある。</p> <p>*グラスゴーは、炭坑と鉄鉱が合い並んで掘り出される工業都市。グラスゴーの生命の源はクライド川。流れの速い大きな河で</p>

			ない。	ある。然し、平和と共に川下のクライドの造船業が全部潰れたので、5万に近い失業者が今日は乞食のようになっている。
エジンバラ見物 スコットランド印象 ①グラスゴーの乞食 ②ノックスの墓 一尺平方の真鍮板に {I,K,1572}と記録されているのみ。 ③スコット記念塔の側に旅装のリヴィングストーン銅像が雨に濡れ乍ら立つ。	エジンバラは海浜に近いが京都のような感じのする城下街で、学問中心の都会である（人口36~37万人）エジンバラ城を見に行く。 *16世紀の宗教革命の時に女王メリーがこの城に住んでいた。メリーの伝説が相当多い。		スコットランドの山々を汽車の窓から眺めつつエジンバラに急いだ。グラスゴーからエジンバラに廻るつもりで行けばスコットの詩で有名な「湖沼地方」に行けたのに手違いで行けなかったことは残念なことをした。 カーライルやロバート・バアンス、ウォルター・スコットのことを思うとスコットランドの地が、勇壮な響きを以って賀川の耳に迫る。 *馬車を雇い、ジョン・ノックスの墓、ノックスの説教をした教会（セント・ガイルス会堂）、スコットランドの議会、法廷、ノックスの家、昔のスコットランド王の離宮等を次々に見て廻った。	*スコットランド人は精気に溢れた民族であり、その土地は北方の貧しい土地であるが、偉人のふ卵器であると考えて差し支えない。 *七重の塔になるスコット記念塔の立つ公園を散歩しながら、エジンバラの地図に詩を書きつけた。「永遠の乳房」それは正當なりや」を参照。
国教会伝導協会総会（C・M・S）にて講演	*ロバートソン卿に招かれてC・M・S総会にて講演。 *英国バプテスト教会本部にも招かれて行ったが、C・M・Sよりは比較的元気であったが、労働組合などで感じる元気が無い事に驚いた。		*ロバートソン卿は、銀行界の大立役者、日本で云えば、渋沢男爵と云うごとき人。総会に出席している人は老人が多く、賀川は外国伝道に興味を持っている人がもう少し壮年者が多くならなければ駄目だと思った。 *何故、宗教的士気が青年達を掴まえ無くなったか？その大きな理由は、宗教が新しいあり方を忘れているからである。兄弟愛による新形式を全く置き去りにしている事を悲しく思った。ヨーロッパの宗教を新しくする為に、大きな兄弟愛運動を組織的にやる外に道は無い。	*米国でも同様であるが、宗教的世界主義が青年達の脳裏を掴んだ時代は30~40年前の事。今の青年達の間では、宗教的情熱が生涯を支配する力と考えられなくなったことに淋しさを感じた。 *C・M・Sの総会で賀川は最年少であった
英国労働運動の精神的背景			既成教会が兄弟愛運動に冷やかであるのに反して、英国労働運動の背景には、根強い宗教がある。 *I・L・Pの大演説会には、元鉱夫総連合会長ロバート・スミリーが「神は自ら助ける者を助ける」と宗教的言葉で	*予測はつかないが、英国に今の精神主義的背景が消え失せるとは考えられない。去ればこそ、I・L・Pの仲の良い光景も、議会の紳士的態度も、労

		<p>締め括った。若いクライドの婦人が演説した。牧師の娘で有るというが、「我等はクリスチャンなるが故に、労働運動をするのである」と啖呵をきった。3,000人の会衆は歓呼して中には「アーメン」と真面目に叫んだ。</p> <p>*前の大蔵大臣フィリップ・スノーデン氏が「労働運動の聖パウロ」とあだ名を与えられる程宗教運動に熱心な事や、共産党に同情のあるランズベリーが毎日曜日に基督教の立場から労働運動を論じているのを見て、英国の労働運動には驚くほど精神的基調があることを知り得て喜んだ。</p>	<p>働組合の団結力もみな此処に源泉があるのだなと読めた。</p>
英国労働組合議会労働党本部		<p>*労働党と労働組合議会が同じ所に事務所を持っている。労働党総幹事・アーサー・ヘンダーソン氏 労働組合総幹事・ブルムレー氏（組合員の信望を担う） 労働党員 450 万人が中堅となり、その党費の八割までは労働組合が負担し選出代議士の 8 割 5 分までは、知識階級の者を選挙している。マクドナルドを中心とする I・L・P（独立労働党）と社会民主党とファビアン協会の三団体である I・L・Pは今日 38 万人くらいの勢力で、社会民主党 4 万人、ファビアン協会は少ない。</p> <p>*調査主任のウィリアム・ギリス氏に大変世話になる。 アウストリアの革命が第二インターナショナルで成功している話や、ベルジアムの労働組合・労働党・消費組合・互助組合の四角同盟が、ベルジアムを社会主義国にする為に一大成功を納めている。是非二国を訪問せよと紹介状をくれた。</p>	<p>*労働組合本部はロンドン市西端ヴィクトリア駅に近いエクレクトン・スクエア。建築も独立家屋でなく長屋の一部（日本の労働総連盟の本部の方が立派） ヨーロッパの労働組合の事務所でブラッセルとベルリンの労働組合会館が最も堂々としていた。ロンドンとパリーの C・G・T が最も貧弱。</p>
大英博物館の印象	<p>トラファルガル・スクエアにある美術館は大変立派。ギリシャ彫刻、エジプト美術、アッシリア・バビ</p>	<p>*アッシリア、バビロンの白瓦に書いた古書から、ヘブライの聖典、ギリシャ、ローマの巨人の手記等も集められている。賀川が最も喜んだ事は、歴史部の博物館と 5 里も離</p>	<p>*ハイドパークに行っても、議会に行っても、討論会に行っても実に議論が好きな、そして、よく議論をする国民である。</p>

	<p>ロンの美術品、ニネベの王アシュルバニパル遠征の壁画など立派な物が土中から発掘され此処に展示されている。ギリシャ彫刻の部門には、パルテノンの壁間の彫刻の大部分が運ばれて展示されている。</p>	<p>れずにサウス・ケンシントンにある生物博物館と科学博物館を見ることが出来たことである。科学博物館では、ジェームス・ワットが 1785 年初めて作った木骨のコンパウンド・スチーム・エンジンの実物が展示されていた、スチブソンソンの汽車、機関車、時計、船舶各種、レンズなど幾百種となく陳列されていた。毎日学芸員による専門的な講義が開催される。</p>	<p>賀川はロンドンに来て十数回の講演をしたが、彼等が感激的に聴いてくれることに感激した。ハイドパークの野天演説場を研究してみても、英国人の議論好きなことと辛抱して他人の議論に耳を傾けることに驚いた。</p>
<p>ウエスレー博物館 ウエスレーの墓</p> <p>* 魂の浄化の為にウエスレーは大きな力を持っていた。</p> <p>1925年4月28日 ロンドンに来て丁度40日目にフランスに行く。(日本人教会の土肥さんに見送られヴィクトリア駅よりコンチネンタル・エクスプレスに乗り込む)</p>	<p>* フランス革命の真最中、英国の宗教運動を指導し、英国を暴力の革命から救ったのはジョン・ウエスレーのお陰である。とトマス・カアライルも言っている。</p> <p>* 賀川の長い貧民窟生活の中で最も感化させられた書物は、ウエスレーの伝道日記である。</p> <p>* ロンドンとドーヴァーの間は果樹園・農作物畑が続く。ドーヴァーの数里南のフォークストーンから対岸のカレーに向けて船が出る。波止場には三千トン級の二本筒の汽船が 4~5 隻客を待つ。</p>	<p>* ウエスレーは、午前五時から午後十時まで殆ど超人間的労作により数万ページの著作と幾万里の馬上旅行によって大英帝国の行き詰った精神界を混沌たる状態から救い得たのはナポレオン以上の大事業であった。</p> <p>* 宗教家として最も早く失業問題に目覚め、一世紀昔から既にある意味の失業保険制度を考案した。弱者の友であり、貧民の友であるウエスレーが、如何に大衆を再びイエス・キリストに結び付けたかは、十字軍以来の奇跡。</p> <p>* 英国に於ける奴隷解放の運動は、彼の弟子達によって計画され、世界の日曜学校運動も、ブース大将の救世軍運動も、彼の感化である。英国国教会の覚醒も彼の力である。</p> <p>* 英国からフランスに向かうドーヴァー海峡の船の中で考えた。英国は左前の大富限者のような気がする。戦争が済んで足掛け8年に成るが産業は6割しか復興せず失業者は国に充ち、その救済費だけで1年7億円を超え、1919年より5年間32億円以上を支出している。食料を生産すべき農場は荒廃し、1年35億円に近い食料品を外国から輸入している状態である</p>	<p>* ウエスレーの墓は、ロンドン市繁華街のビショップ・ゲートの裏側のメソヂスト教会の庭にある。彼の慈母スザンナ・ウエスレーの墓も、彼の宗教運動を助けた百幾十名の同士の墓も共にある</p> <p>* 真正の革命は魂の革命に始まる。外部的革命は、瞬間的成功しか納め得ない。ギリシャの共和政府、ローマの共和政府も、フランスの共和政府もみな倒れた。真正の民主運動は内側からのみ成功する。ルーテル、カルヴィン、クロムエル、ワシントン、リンコルンの掲げた魂の民主運動が、今日まで変らない歩み続けるのである。</p> <p>* 工業立国で行こうとする国民は何時か突き当たる。老朽の英国、工場は朽ち、機械は錆び、労働階級が階級闘争を叫ぶ。工業立国では永遠に救われない。工業文明の末路から救われる為には、食料だけは自国の領域内で生産しえる程の農業と応用科学の維持が必然と考えた</p>